



診療内容

婦人科外来は、子宮頸がんを中心に婦人科がんの早期発見が第一であり、次に早期診断につながる頸がん前がん病変である CIN（Cervical Intraepithelial Neoplasia；頸部上皮内腫瘍）の経過観察の二つが主な診療内容です。このため、診察に当たる医師は全てこの分野のエキスパート（専門医）が担当しているという大きな特徴があります。

検診や診療所での一次検診で要精密検査となった方が、病院で治療する必要があるか否か診断して、病期に応じた治療機関を紹介する二次検診機関（精密検査）の役目を果たしています。もちろん、地域がん検診機関として近隣住民を対象に個別検診等も行っています。

●精密検査（二次検診）

細胞診、コルポスコプ診、狙い組織診、必要に応じて内膜搔爬（そうは）診、経膈超音波検査、HPV（Human papillomavirus；ヒトパピローマウイルス）検査等を行い、これらの結果から総合診断して治療のための専門医療機関の紹介、経過観察、異常なし群に分けます。

・細胞診

子宮頸部、体部の細胞を器具で採取して異常の有無を調べます。

・コルポスコープ診

子宮頸部に酢酸を塗布後、コルポスコープ（頸部拡大鏡）で観察して病変の部位と程度の検査を行います。

・狙い組織診

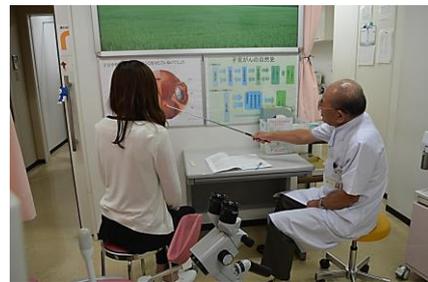
コルポスコープで確認した病変部位を狙って、切除器具で組織を採取して病理検査を行います。

・内膜搔爬（そうは）診

子宮内膜（体部）の組織を採取して病理検査を行います。

・経膈超音波

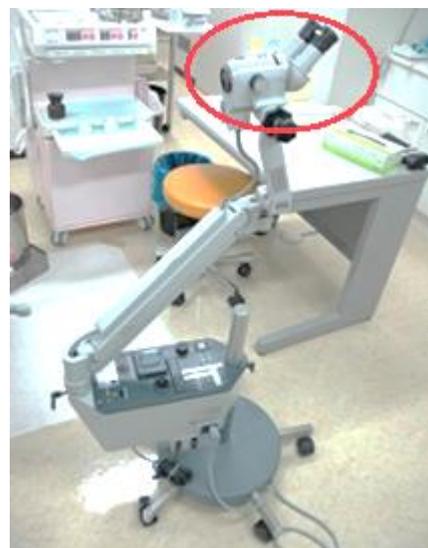
膈内にプローブを挿入して子宮頸部、体部、内膜、卵巣等の検査を行います。



■結果説明



■顕微鏡による上皮内腫瘍細胞



■コルポスコープ（頸部拡大鏡）



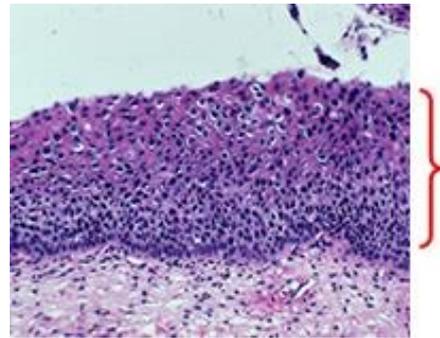
■コルポスコープによる子宮頸部の拡大写真/白い部分が上皮内腫瘍

・ HPV 検査

頸がん発生の原因となる HPV（ヒトパピローマウイルス）が子宮頸部に感染しているか否かを検査します（HPV テスト）。

病変の程度により治療判定の指標として HPV のサブタイプ（亜型）を検査します（HPV タイピング）。

検査項目はご相談の上、お決めいたします。



■ 顕微鏡による子宮頸部の上皮内腫瘍組織

■ 施設認定

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本臨床細胞学会施設